

令和7年12月1日  
北海道足寄郡陸別町出張報告書

氏名：五味 優輝

所属：名古屋大学宇宙地球環境研究所/大学院工学研究科電気工学専攻

塩川研究室（修士2年）

滞在期間：令和7年11月6日～令和7年11月9日

陸別町は北海道の道東、十勝振興局管内の足寄郡に位置する。周囲を山に囲まれた盆地であり、真冬には最低気温が-30℃を下回ることもある「日本で一番寒い街」として有名である。陸別町には今研究所の観測所が設置されており、密接な関係にある。今出張では陸別町との社会連携連絡事業の一環として、小中学生向けの出前授業・おもしろ実験のサポート、SuperDARN レーダー機器の調整を行った。

11/7(金) 陸別小・中学校での出前授業のサポート

西谷先生の中学生への授業のサポートとして、短波ラジオの使用をサポートした。山に囲まれた陸別町でも、電離圏ではね返る短波の性質から短波放送を受信することができた。生徒たちは興味津々な様子で先生の授業を真面目に聞いており、非常に感心した。午前の授業終了後、陸別小学校で陸別町の給食をいただいた。十数年ぶりの給食は、陸別町で採れた食材を使用しており栄養満点、特に丂や牛乳がおいしかった。

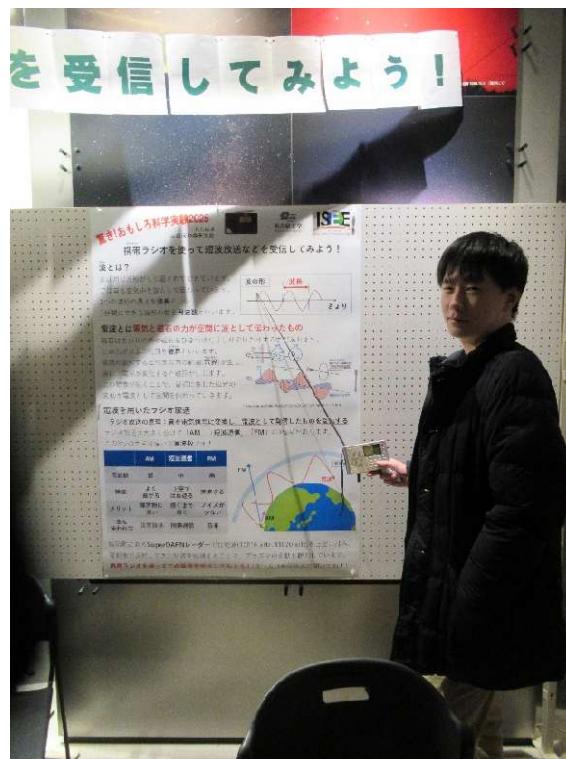
11/8(土) りくべつ天文台でのおもしろ実験

りくべつ天文台で、短波ラジオを使用した短波放送等の受信実験を行った。昨日授業を行った中学生が来てくださり、寒空の下1時間ほど夢中で様々な周波数を試していたのが印象的だった。時間を空けて様子を見に行った時に、中国語やトルコ語の放送を見つけることを楽しそうに報告してくれたことがうれしかった。このような機会を設けることによって勉強の面白さに気づいてくれたら、身近なところにある不思議を面白がってくれたら、今研究所の研究に少しでも興味をもってくればならぬと、強く感じた。

最後に、陸別町は名古屋よりもずっと寒く、少し体調を崩してしまったが、現地の方がのど飴や薬を差し出してくれたり、人の温かさに触れて非常に心に沁みる出張だった。北海道の料理は本当においしく、移住を考えるレベルである。2月前半には、北海道随一の寒さを体験できる「しぶれフェスティバル」が開催される。今年11月に低緯度オーロラの観測でも話題になった陸別町を一度訪れてみてはいかがだろうか？



出張授業中、中学生に短波ラジオの使い方をレクチャーしている様子。



自作したポスターの前で、短波の伝搬の概要を説明する様子。